

佐呂間町財務書類
【統一的な基準】

平成30年度

北海道佐呂間町
(企画財政課)

目次

I. 新地方公会計制度の概要	
(1) 統一的な基準の特徴	1
(2) 各財務表の概要	2
(3) 財務書類4表構成の相関関係	3
II. 各会計区分の対象範囲	4
III. 作成基準日	4
IV. 平成30年度財務書類	
(1) 一般会計等財務4表	
【様式第1号】貸借対照表	5
【様式第2号】行政コスト計算書	7
【様式第3号】純資産変動計算書	9
【様式第4号】キャッシュフロー計算書	11
【様式第5号】附属明細書	13
注記（一般会計等）	23
(2) 全体財務4表	
【様式第1号】貸借対照表	28
【様式第2号】行政コスト計算書	29
【様式第3号】純資産変動計算書	30
【様式第4号】キャッシュフロー計算書	31
【様式第5号】附属明細書	32
注記（全体）.....	33
(3) 連結財務4表	
【様式第1号】貸借対照表	35
【様式第2号】行政コスト計算書	36
【様式第3号】純資産変動計算書	37
【様式第4号】キャッシュフロー計算書	38
注記（連結）.....	39

「統一的な基準による地方公会計マニュアル（平成28年5月総務省）」で示されている様式4表に、これらの財務書類に関連する事項についての「附属明細書」及び作成に当たって説明する必要がある情報を示した「注記」を加えて作成しています。

附属明細書

有形固定資産の明細や貸付金の明細など、財務書類4表の各項目の内訳を詳しく表示しています。

注記

有価証券などの評価基準及び評価方法、連結対象範囲など財務書類4表を作成する上で説明する必要がある情報について表示しています。

I. 新地方公会計制度の概要

(1) 統一的な基準の特徴

地方公共団体における予算・決算に係る会計制度（官庁会計）は、予算の適正かつ確実な執行を図るという観点から、確定性、客観性、透明性に優れた現金主義・単式簿記を採用しています。

一方、地方公共団体の厳しい財政状況の中で、財政の透明性を高め、住民に対する説明責任をより適切に果たし、財政の効率化・適正化を図るため、従来からの単式簿記による現金主義会計では把握できない情報（ストック情報（資産・負債）や見えにくいコスト情報（減価償却費等））を住民や議会に説明する必要が一層高まっており、補完の手法として複式簿記による発生主義会計が求められるようになりました。

このような動きを受け、総務省は平成27年1月に「統一的な基準による地方公会計マニュアル」を示し、原則として平成27年度から平成29年度までの三年間で統一的な基準による財務書類等を整備するよう全ての都道府県、市町村等に要請しました。

今回の「統一的な基準」では、会計処理方法として民間企業会計と同様の複式簿記や発生主義会計を導入するとともに、現存するすべての固定資産を洗い出し、固定資産台帳を整備することで、現金取引に加えて、ストック情報（資産・負債・純資産の期末残高）及びフロー情報（期中の収益・費用及び純資産の内部構成の変動）を網羅的かつ公正価値で把握できます。

また、連結財務書類においては、地方公共団体の構成団体である一部事務組合や第三セクターを一つの行政サービス実施主体と捉え、公的資金等によって形成された資産の状況、その財源とされた負債・純資産の状況さらには行政サービス提供に要したコストや資金収支の状況などを総合的に明らかにすることが可能です。

(2) 各財務表の概要

1. 貸借対照表 略称：BS (Balance Sheet)

地方公共団体がどのような資産をいくら保有しているのか（資産保有状況）と、その資産はどのような財源により形成されているのか（財源調達状況）を対照表示したものです。

貸借対照表の作成により、基準日時点における当地方公共団体の財政状態（資産・負債・純資産の残高及び内訳）が明らかにされます。

2. 行政コスト計算書 略称：PL (Profit and Loss statement)

一会計年度中の行政活動に係る費用（減価償却費を含む）と行政活動との直接的な対価性を有する使用料・手数料等の収益を対比させたものです。

その差額として、地方公共団体の一会計年度中の行政活動について税収等で賄うべきコスト（純行政コスト）が明らかにされます。

3. 純資産変動計算書 略称：NW (Net Worth statement)

貸借対照表（BS）に表示される純資産が、一会計年度中にどのように変動したのかを明らかにするものです。

この変動は、行政コスト計算書（PL）で算出された純行政コストを減少要因として、税収等や国県等補助金といった財源を増加要因として算出されます。

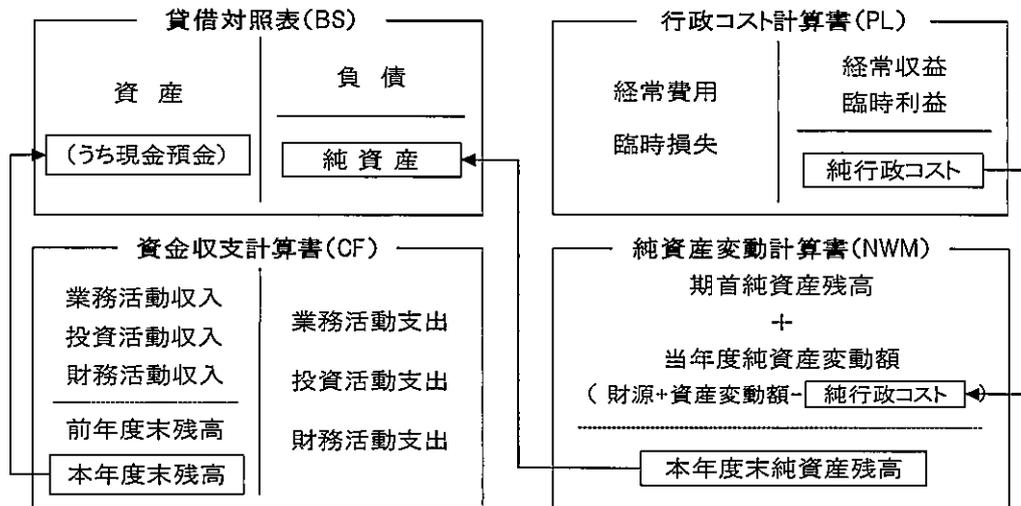
純資産の総額は「固定資産形成分」と「余剰分（不足分）」に分類されますが、これは純資産がどのような経緯で蓄積されたものか、どのような形態で保有されているかを表しています。

4. キャッシュフロー計算書 略称：CF (Cash Flow statement)

一会計年度中の現金等の資金の流れを、性質の異なる3つの活動（業務活動、投資活動、財務活動）に区分して表示したものです。

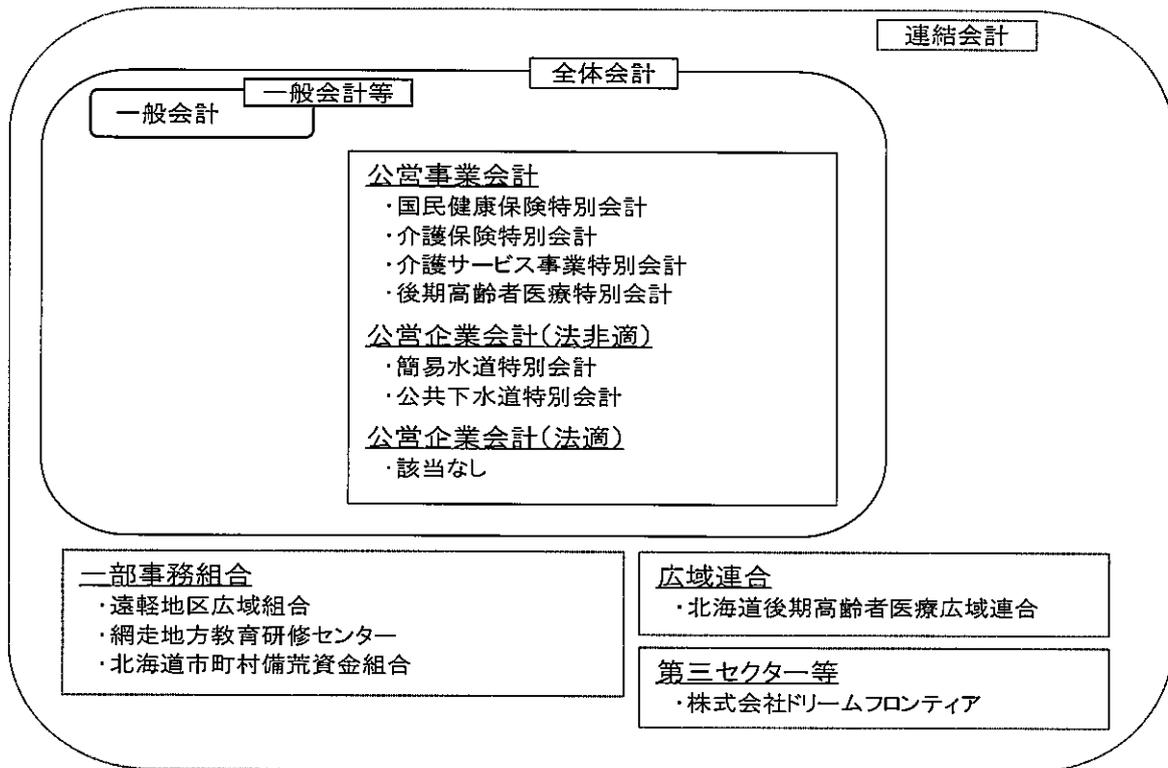
現金収支は歳入歳出決算書においても明らかにされているところですが、キャッシュフロー計算書では資金の流れを要素別に表示することにより資金利用状況及び資金獲得能力、すなわち資金の増減要因が明らかにされます。

(3) 財務書類4表構成の相関関係



- ① 貸借対照表 (BS) の資産のうち「現金預金」の金額は、資金収支計算書 (CF) における当年度末残高に当年度末歳計外現金残高を加えた金額と対応します。
- ② 貸借対照表 (BS) の「純資産合計」の金額は、純資産変動計算書 (NWM) の「当年度末残高」と対応します。
- ③ 行政コスト計算書 (PL) の「純行政コスト」の金額は、純資産変動計算書 (NWM) の「純行政コスト」の金額と対応します。

II. 各会計区分の対象範囲



III. 作成基準日

作成基準日は、平成31年3月31日（平成30年度末）とし、平成31年4月1日から平成31年5月31日までの出納整理期間における出納については、作成基準日までに終了したものとして作成しています。

一般会計等財務書類

IV. H30年度財務書類

(1) 一般会計等 財務4表

【様式第1号】

貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	19,037,532	固定負債	7,348,762
有形固定資産	14,874,057	地方債	6,548,444
事業用資産	9,686,953	長期未払金	-
土地	1,213,667	退職手当引当金	800,318
立木竹	2,682,587	損失補償等引当金	-
建物	15,635,930	その他	-
建物減価償却累計額	△ 9,878,354	流動負債	686,443
工作物	35,501	1年内償還予定地方債	589,257
工作物減価償却累計額	△ 2,379	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	63,521
航空機	-	預り金	33,665
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-		
その他減価償却累計額	-	負債合計	8,035,205
建設仮勘定	-		
インフラ資産	4,978,224	【純資産の部】	
土地	397,000	固定資産等形成分	21,366,383
建物	195,564	余剰分(不足分)	△ 7,800,452
建物減価償却累計額	△ 138,104		
工作物	9,181,222		
工作物減価償却累計額	△ 4,660,304		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	2,846		
物品	1,136,060		
物品減価償却累計額	△ 927,181		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	4,163,476		
投資及び出資金	132,431		
有価証券	12,540		
出資金	119,891		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	31,768		
長期貸付金	80,933		
基金	2,955,229		
減債基金	260,568		
その他	2,694,661		
その他	964,575		
徴収不能引当金	△ 1,461		
流動資産	2,563,605		
現金預金	230,980		
未収金	3,774		
短期貸付金	-		
基金	2,328,851		
財政調整基金	2,328,851		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
資産合計	21,601,137	純資産合計	13,565,932
		負債及び純資産合計	21,601,137

貸借対照表の説明

① 資産の部

学校、道路、公園など将来の世代に引き継ぐ社会資本や、基金、投資など将来現金化することが可能な財産など、これまでの行政活動で形成された資産の年度末現在の価値を示しています。

これまでに佐呂間町では、約216億円の資産が形成されてきました。

- ・事業用資産 … 学校、公営住宅、公民館、庁舎、体育館など
- ・インフラ資産 … 道路、橋りょう等の社会資本
- ・物品 … 現金や基金等以外の動産
- ・投資その他の資産 … 出資金、長期延滞債権、基金など

有形固定資産のうち建物工作物など、耐用年数のある資産の合計取得額は約250億円、その減価償却累計額は約147億円で、約58.6%が経年で消費された計算になります。これらの資産を今後限られた財源で更新していくため、施設の統廃合等や長寿命化を進めていく必要があります。

② 負債の部

資産を形成するための地方債や退職手当引当金など、将来の世代が負担するものです。総額は約80億円あり、大部分は今後償還しなければならない地方債で、その年度末残高は約71億円です。

- ・地方債 … 地方債残高のうち、平成31年度以降に償還が予定されている元金。
- ・1年内償還予定地方債 … 地方債残高のうち、平成30年度に償還が予定されている元金。
- ・退職手当引当金 … 当年度末に全職員が退職した場合に積立不足している退職手当金。

③ 純資産の部

資産合計から負債合計を差し引いた額で、これまでの世代が負担し、将来の返済や支出の必要のない資産で、総額は約136億円あります。

- ・固定資産形成分 … 資産形成のために充当した資源の蓄積をいい、原則として金銭以外の形態（固定資産等）で保有する。
- ・余剰分（不足分） … 費消可能な資源の蓄積をいい、原則として金銭の形態で保有する。流動資産（短期貸付金及び基金等を除く）から負債（将来現金等支出を見込む）を控除した額。マイナスとなることが多く、その場合、基準日時点における将来の金銭必要額を示している。

貸借対照表の経年比較

【資産】			(単位：千円)
平成30年度	平成29年度	平成28年度	
21,601,137	21,845,851	22,122,337	

【負債】			(単位：千円)
平成30年度	平成29年度	平成28年度	
8,035,205	8,188,393	7,920,781	

【純資産】			(単位：千円)
平成30年度	平成29年度	平成28年度	
13,565,932	13,657,458	14,201,556	

【様式第2号】

行政コスト計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	4,329,951
業務費用	2,761,162
人件費	984,452
職員給与費	927,945
賞与等引当金繰入額	63,521
退職手当引当金繰入額	△ 41,686
その他	34,671
物件費等	1,748,670
物件費	1,091,991
維持補修費	100,893
減価償却費	555,785
その他	-
その他の業務費用	28,040
支払利息	14,151
徴収不能引当金繰入額	463
その他	13,426
移転費用	1,568,789
補助金等	912,875
社会保障給付	290,758
他会計への繰出金	363,578
その他	1,579
経常収益	256,307
使用料及び手数料	153,925
その他	102,381
純経常行政コスト	4,073,645
臨時損失	303
災害復旧事業費	-
資産除売却損	303
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	2,575
資産売却益	2,575
その他	-
純行政コスト	4,071,373

行政コスト計算書の説明

① 経常費用

行政サービスに係る経常的な費用を表示したもので、人件費、物件費、減価償却費が大きな割合を占めています。

当年度の経常費用合計（経常行政コスト）は約43億円になりました。

【業務費用】

- ・人件費 … 職員給与、議員報酬、その他委員報酬、退職給付費用など。
- ・物件費等 … 委託料、備品・消耗品、施設などの維持補修にかかる経費や減価償却費、非常勤職員の賃金や報酬など。
- ・その他の業務費用 … 地方債償還の利子や支払利息、徴収不能引当金繰入額など。

【移転費用】

- ・補助金等 … 特別会計や他団体への負担金、補助及び交付金。
- ・社会保障給付 … 生活保護費などの扶助費。
- ・他会計への繰出金 … 特別会計等への繰出金。

② 経常収益

行政サービスの提供に係る住民の支払いによる収入で、当年度は約2.6億円です。

経常費用合計から経常収益を差し引いた純経常行政コストは、約41億円です。

これは税収等で賄われるものです。

純経常行政コストから資産売却損、資産売却益等の臨時の損失や利益を差し引いた純行政コストは約41億円となりました。

行政コスト計算書の経年比較

【純行政コスト】

(単位：千円)

平成30年度	平成29年度	平成28年度
4,071,373	4,594,444	5,341,604

純資産変動計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

(単位：千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	13,657,458	21,627,187	△ 7,969,729
純行政コスト(△)	△ 4,071,373		△ 4,071,373
財源	3,973,834		3,973,834
税金等	3,536,950		3,536,950
国県等補助金	436,884		436,884
本年度差額	△ 97,539		△ 97,539
固定資産等の変動(内部変動)		△ 261,811	261,811
有形固定資産等の増加		274,522	△ 274,522
有形固定資産等の減少		△ 560,814	560,814
貸付金・基金等の増加		92,815	△ 92,815
貸付金・基金等の減少		△ 68,334	68,334
資産評価差額	-	-	
無償所管換等	1,008	1,008	
その他	5,005	-	5,005
本年度純資産変動額	△ 91,526	△ 260,804	169,277
本年度末純資産残高	13,565,932	21,366,383	△ 7,800,452

純資産変動計算書の説明

①当年度差額

純行政コストは1年間の税収等や国県等補助金の財源で賄われるものです。
純行政コストが財源を上回った場合、純資産の減少と捉えることができます。

②当年度純資産変動額

- ・有形固定資産等の増加
資金収支計算書の「公共施設等整備費支出」から集計されます。
- ・有形固定資産等の減少
「減価償却費」＋「資産売却損」＋「資産売却収入」から集計されます。
- ・貸付金・基金等の増加
「基金積立金支出」＋「投資及び出資金支出」＋「貸付金支出」から集計されます。
- ・貸付金・基金などの増加
「基金取崩収入」＋「貸付金元金回収収入」から集計されます。

尚、上記仕訳以外の非資金仕訳により固定資産形成額に差異が発生した場合、調整仕訳金額を計上することがあります。

- ・資産評価差額
有価証券、有形固定資産などの評価に伴う増加・減少が計上されます。
- ・資産評価差額
有形固定資産の異動のうち、資金を伴わない増加・減少が計上されます。
無償取得（寄付など）、調査判明増加・減少、所管換増加・減少など。

③当年度末純資産残高

前年度末純資産残高に当年度純資産変動額を加えた金額で、貸借対照表の純資産合計と一致します。

純資産の減少は、現役世代が将来世代にも利用可能であった資源を費消して便益を享受する一方で、将来世代にその分の負担が先送りされたことを意味します。

有形固定資産の減少が増加を上回ったということは、過去に資本投資した有形固定資産の減価償却による価値の減少分よりも、有形固定資産への投資が少なかったことを意味します。

このような増減により平成30年度末の純資産は前年度比で約0.9億円減少しました。

【様式第4号】

資金収支計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

(単位：千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	3,815,084
業務費用支出	2,246,295
人件費支出	1,025,833
物件費等支出	1,192,885
支払利息支出	14,151
その他の支出	13,426
移転費用支出	1,568,789
補助金等支出	912,875
社会保障給付支出	290,758
他会計への繰出支出	363,578
その他の支出	1,579
業務収入	4,199,738
税収等収入	3,538,693
国県等補助金収入	404,448
使用料及び手数料収入	153,915
その他の収入	102,681
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	384,654
【投資活動収支】	
投資活動支出	357,032
公共施設等整備費支出	274,522
基金積立金支出	82,510
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	100,405
国県等補助金収入	32,436
基金取崩収入	60,669
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	7,300
その他の収入	-
投資活動収支	△ 256,627
【財務活動収支】	
財務活動支出	586,640
地方債償還支出	586,640
その他の支出	-
財務活動収入	478,433
地方債発行収入	478,433
その他の収入	-
財務活動収支	△ 108,207
本年度資金収支額	19,821
前年度末資金残高	177,494
本年度末資金残高	197,315
前年度末歳計外現金残高	37,265
本年度歳計外現金増減額	△ 3,599
本年度末歳計外現金残高	33,665
本年度末現金預金残高	230,980

資金収支計算書の説明

1年間の資金の増減をⅠ業務活動収支、Ⅱ投資活動収支、Ⅲ財務活動収支に区分し、3つの収支の財源がどのように調達され、収支の過不足が生じたのかを明らかにするものです。

以下の各収支は、現金の流れを表しキャッシュフローとも呼びます。

① 業務活動収支

行政サービスを行う中で、毎年度継続的に生じる収入と支出を表示します。

- ・業務支出 … 人件費、物件費、補助費、扶助費などの支出。
- ・業務収入 … 税収等収入、（行政サービスに係る）国県等補助金、使用料及び手数料など。
- ・臨時支出 … 災害復旧事業費などの、経常的でない臨時の支出。
- ・臨時収入 … 災害復旧事業費に対する補助金収入など。

経常的な行政活動の収支である業務活動収支は約3.8億円の余剰となっています。

② 投資活動収支

公共施設等の整備、基金の積立・取崩しに関わる収入と支出を表示します。

- ・投資活動支出 … 公共施設等の整備、基金の積立、貸付などに要する支出。
- ・投資活動収入 … 国県等補助金、基金取崩、貸付金の元金回収、資産の売却などの収入。

資産形成や投資・貸付金などの収支である投資活動収支は約2.6億円の不足となりました。

③ 財務活動収支

資金の調達及び返済に関わる収入と支出を表示します。

- ・財務活動支出 … 地方債の元本償還などの支出。
- ・財務活動収入 … 地方債の発行などによる収入

公債の収支である財務活動収支は約1.1億円の不足となりましたが、これは当年度で地方債を新たに借り入れた額よりも、当年度で返済した額の方が大きかった事を示しています。

このようなことから、当年度資金収支額は約0.2億円の余剰となり、前年度末資金残高約1.8億円を加えて、当年度末資金残高は約2億円となりました。

【様式第5号】

附属明細書

1. 貸借対照表の内容に関する明細

※下記以外の資産及び負債のうち、その額が資産総額の100分の5を超える科目についても作成する。

(1) 資産項目の明細

①有形固定資産の明細

(単位：千円)

区分	前年度末残高 (A)	本年度増加額 (B)	本年度減少額 (C)	本年度末残高 (A) + (B) - (C) (D)	本年度末 減価償却累計額 (E)	本年度償却額 (F)	差引本年度末残高 (D) - (E) (G)
事業用資産	19,481,415	488,570	402,299	19,567,686	9,880,732	294,874	9,686,953
土地	1,218,696	20,349	25,377	1,213,667	-	-	1,213,667
立木竹	2,682,587	-	-	2,682,587	-	-	2,682,587
建物	15,544,631	468,222	376,922	15,635,930	9,878,354	292,495	5,757,576
工作物	35,501	-	-	35,501	2,379	2,379	33,123
船舶	-	-	-	-	-	-	-
浮標等	-	-	-	-	-	-	-
航空機	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	-	-	-	-
インフラ資産	9,673,564	109,547	6,480	9,776,631	4,798,407	193,955	4,978,224
土地	395,992	1,007	0	397,000	-	-	397,000
建物	195,564	-	-	195,564	138,104	4,273	57,460
工作物	9,072,682	108,540	-	9,181,222	4,660,304	189,682	4,520,918
その他	-	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	9,326	-	6,480	2,846	-	-	2,846
物品	1,111,544	38,218	13,802	1,136,060	927,181	66,957	208,880
合計	30,266,622	636,336	422,581	30,480,377	15,606,320	555,785	14,874,057

②有形固定資産の行政目的別明細

(単位：千円)

区分	生活インフラ・ 国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	その他	合計
事業用資産	1,213,815	888,500	883,637	1,220,219	3,132,098	9,212	909,838	1,419,635	9,686,953
土地	172,799	208,112	89,602	59,577	107,836	9,212	222,467	344,063	1,213,667
立木竹	-	-	-	-	2,682,587	-	-	-	2,682,587
建物	1,041,016	680,388	760,913	1,160,642	341,674	-	687,372	1,075,572	5,757,576
工作物	-	-	33,123	-	-	-	-	-	33,123
船舶	-	-	-	-	-	-	-	-	-
浮標等	-	-	-	-	-	-	-	-	-
航空機	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフラ資産	4,761,895	6,184	-	-	6,764	-	24,476	178,905	4,978,224
土地	242,194	6,184	-	-	6,764	-	-	141,858	397,000
建物	32,984	-	-	-	-	-	24,476	-	57,460
工作物	4,486,717	-	-	-	-	-	-	34,201	4,520,918
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	-	-	-	-	2,846	2,846
物品	0	6,801	104,613	13,911	27,407	-	27,333	28,815	208,880
合計	5,975,710	911,485	988,250	1,234,130	3,166,268	9,212	961,647	1,627,355	14,874,057

③投資及び出資金の詳細
市場価格のあるもの

(単位：千円)

銘柄名	株数・口数など (A)	時価単価 (B)	貸借対照表計上額 (A) × (B) (C)	取得単価 (D)	取得原価 (A) × (D) (E)	評価差額 (C) - (E) (F)	(参考) 財産に関 する調書記載額
合計	-	-	-	-	-	-	-

市場価格のないものうち連結対象団体 (会計) に対するもの

(単位：千円)

相手先名	出資金額 (貸借対 照表計上額) (A)	資産 (B)	負債 (C)	純資産額 (B) - (C) (D)	資本金 (E)	出資割合 (%) (A) / (E) (F)	実質価値 (D) × (F) (G)	投資損失引当金 計上額 (H)	(参考) 財産に関 する調書記載額
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-

市場価格のないものうち連結対象団体 (会計) 以外に対するもの

(単位：千円)

相手先名	出資金額 (A)	資産 (B)	負債 (C)	純資産額 (B) - (C) (D)	資本金 (E)	出資割合 (%) (A) / (E) (F)	実質価値 (D) × (F) (G)	強制評価減 (H)	貸借対照表計上額 (A) - (H) (I)	(参考) 財産に関 する調書記載額
地方公共団体金融機構	700	-	-	-	-	-	-	-	700	700
北海道信用保証協会	300	-	-	-	-	-	-	-	300	300
北海道私学振興基金協会	90	-	-	-	-	-	-	-	90	90
全国漁業信用基金協会	1,000	-	-	-	-	-	-	-	1,000	1,000
北海道農業信用基金協会	1,250	-	-	-	-	-	-	-	1,250	1,250
佐呂間町森林組合	15,000	-	-	-	-	-	-	-	15,000	15,000
北海道市町村職員福祉協会	1,000	-	-	-	-	-	-	-	1,000	1,000
北海道土地改良事業団体連合会	150	-	-	-	-	-	-	-	150	150
分取育林 (国有林)	3,750	-	-	-	-	-	-	-	3,750	3,750
オホーツク地域振興機構	7,083	-	-	-	-	-	-	-	7,083	7,083
北海道健康づくり財団	3,040	-	-	-	-	-	-	-	3,040	3,040
漁港漁場漁村技術研究所	59	-	-	-	-	-	-	-	59	59
北海道栽培漁業基金	11,000	-	-	-	-	-	-	-	11,000	11,000
北海道勤労者信用基金協会	250	-	-	-	-	-	-	-	250	250
北海道学校保健会	220	-	-	-	-	-	-	-	220	220
佐呂間町農業担い手支援機構	75,000	-	-	-	-	-	-	-	75,000	75,000
合計	119,891	-	-	-	-	-	-	-	119,891	119,891

④基金の明細 (単位：千円)

種類	現金預金	有価証券	土地	その他	会社 (貸借対照表計上額)	会社 (参考)財産に関する 調整記載額
財政調整基金	2,328,851				2,328,851	2,328,851
減価基金	260,568				260,568	260,568
備荒資金組合納付金	964,575				964,575	964,575
各公共施設整備基金	1,681,685				1,681,685	1,681,685
ふるさとまちづくり振興基金	75,989				75,989	75,989
ふれあい交通網整備事業基金	390,180				390,180	390,180
ふるさと応援事業基金	75,000				75,000	75,000
福祉事業基金	137,018				137,018	137,018
奨学資金基金	33,868				33,868	33,868
中小企業振興資金等基金	131,976				131,976	131,976
農業振興基金	2,883				2,883	2,883
災害復興基金	16,051				16,051	16,051
教育施設整備基金	21,628				21,628	21,628
土地開発基金	128,384				128,384	128,384
合計	6,248,655	-	-	-	6,248,655	6,248,655

⑤貸付金の明細 (単位：千円)

相手先名または種別	長期貸付金		短期貸付金		(参考) 貸付金計
	貸借対照表計上額	徴収不能引当金 計上額	貸借対照表計上額	徴収不能引当金 計上額	
奨学資金貸付金	6,933				6,933
クリニックさくらま開設時運転経費貸付金	74,000				74,000
合計	80,933	-	-	-	80,933

⑥長期延滞債権の明細

(単位：千円)

相手先名または種別	貸借対照表計上額	徴収不能引当金計上額
【貸付金】		
小計	-	-
【未収金】		
税等未収金		
町民税	10,709	
固定資産税	10,570	
軽自動車税	82	
入湯税		
その他の未収金		
分担金及び負担金	163	
使用料及び手数料	8,058	
財産収入		
雑収入	2,186	
小計	31,768	-
合計	31,768	-

⑦未収金の明細

(単位：千円)

相手先名または種別	貸借対照表計上額	徴収不能引当金計上額
【貸付金】		
小計	-	-
【未収金】		
税等未収金		
町民税	1,543	
固定資産税	1,561	
軽自動車税	73	
入湯税		
その他の未収金		
分担金及び負担金	19	
使用料及び手数料	578	
財産収入		
雑収入		
小計	3,774	-
合計	3,774	-

(2) 負債項目の明細
① 地方債（借入先別）の明細

種類	地方債残高		政府資金	地方公共団体 金融機構	市中銀行	その他の 金融機関	市場公募債		その他
	うち1年内償還予定	うち1年以上償還予定					うち共同発行債	うち住民公募債	
【通常分】	4,853,863	379,971	-	-	-	-	-	-	-
一般公共事業	2,090	1,469	-	-	-	-	-	-	-
公営住宅建設	300,902	38,515	-	-	-	-	-	-	-
災害復旧	27,613	3,305	-	-	-	-	-	-	-
教育・福祉施設	18,435	2,823	-	-	-	-	-	-	-
一般事業	303,828	40,806	-	-	-	-	-	-	-
その他	4,200,995	293,054	-	-	-	-	-	-	-
【特別分】	2,283,838	209,285	-	-	-	-	-	-	-
臨時財政対策債	2,166,887	184,105	-	-	-	-	-	-	-
環状補てん債	16,816	4,069	-	-	-	-	-	-	-
退職手当債	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	100,135	21,111	-	-	-	-	-	-	-
合計	7,137,701	589,257	-	-	-	-	-	-	-

(単位：千円)

② 地方債（利率別）の明細

地方債残高	1.5%以下	1.5%超 2.0%以下	2.0%超 2.5%以下	2.5%超 3.0%以下	3.0%超 3.5%以下	3.5%超 4.0%以下	4.0%超	(参考) 加重平均 利率
7,137,701	6,992,573	131,099	560	2,210	8,087	3,172	3,172	

(単位：千円)

③ 地方債（返済期間別）の明細

地方債残高	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超 15年以内	15年超 20年以内	20年超
7,137,701	589,257	674,246	744,565	706,679	650,136	2,289,614	1,483,204		

(単位：千円)

④ 特定の契約条項が付された地方債の概要

特定の契約条項が 付された地方債残高	契約条項の概要

(単位：千円)

⑤引当金の明細

(単位：千円)

区分	前年度末残高	本年度増加額	本年度減少額		本年度末残高
			目的使用	その他	
徴収不能引当金	1,765	463	767		1,461
投資損失引当金					
退職手当引当金	842,004	800,318	842,004		800,318
損失補償等引当金					
賞与等引当金	63,216	63,521	63,216		63,521
合計	906,985	864,302	905,988	--	865,300

2. 行政コスト計算書の内容に関する明細
 (1) 補助金等の明細

区分	名称	相手先	金額	支出目的
他団体への公共施設等整備補助金等 (所有外資産分)	計		-	
	負担金	遠軽地区広域組合	268,275	
その他の補助金等	負担金	網走地方教育研修センター	327	
	負担金	北海道後期高齢者医療広域連合	76,058	
	負担金及び負担金	その他	568,215	
	計		912,875	
合計			912,875	

(単位：千円)

3. 純資産変動計算書の内容に関する明細

(1) 財源の明細

		(単位：千円)	
区分	財源の内容	金額	
会計			
税収等	地方税	858,373	
	税関連交付金	134,603	
	分担金及び負担金	38,892	
	地方交付税	2,335,642	
	特別交付金、寄付金、繰入金など	159,440	
	小計	3,536,950	
一般会計	国庫支出金	32,436	
	資源的補助金	-	
	都道府県等支出金	32,436	
	計	201,048	
	国庫支出金	203,400	
国県等補助金	経常的補助金	404,448	
	計	436,884	
	小計	3,973,834	
	合計	3,973,834	

(2) 財源情報の明細

		(単位：千円)		
区分	金額	内訳		
		国県等補助金	地方債	税収等
純行政コスト	4,071,373	404,448	257,033	2,895,184
有形固定資産等の増加	274,522	32,436	221,400	20,686
貸付金・基金等の増加	92,815			92,815
その他				
合計	4,438,710	436,884	478,433	3,008,685
				514,708

4. 資金収支計算書の内容に関する明細
(1) 資金の明細 (単位: 千円)

種類	本年度末残高
要求払預金	230,980
合計	230,980

注記

【一般会計等】

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得原価とし、取得原価が不明なものは原則として再調達原価としています。
また開始後については、原則として取得原価とし、再調達原価での評価は行わないこととしています。

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

出資金のうち、市場価格があるものは会計年度末における市場価格を以て貸借対照表価額としています。
出資金のうち、市場価格がないものは出資金額を以て貸借対照表価額としています。
ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしています。
なお、出資金額の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当するものとしています。

(3) 有形固定資産等の減価償却の方法

- ・有形固定資産（事業用資産、インフラ資産）
定額法を採用しています。
- ・無形固定資産
定額法を採用しています。

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

- ・徴収不能引当金
過去3年間の平均不納欠損率により計上しています。
- ・賞与引当金
翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給対象期間に対する当年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しています。
- ・退職給付引当金
地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っています。
- ・損失補償引当金
地方公共団体財政健全化法における損失補償債務等に係る一般会計等負担見込額算定方式に従っています。

(5) リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。
(少額リース資産及び短期のリース取引は簡易的な取り扱いをし、通常の賃貸借に係る方法に通常の賃貸借に係る方法に準じて会計処理を行っています。)

(6) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等額（3ヶ月以内の短期投資など）を資金の範囲としています。
このうち現金同等額は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受け払いも含んでいます。

(7) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

- ・消費税の会計処理
税込方式によっています。

2. 重要な会計方針の変更等

(1) 評価基準の変更

総務省「今後の地方公会計の推進に関する研究会」報告の「統一的な基準」で他団体との比較可能性をはかるため、開始時において、道路、河川及び水路の敷地については、再調達価格としてきましたが、当時において取得原価が判明するものは取得原価、取得原価が不明なものは備忘価格1円にしています。

平成20年度より平成25年度までに取得した資産についても同様の処理を行っています。

(2) 表示方法の変更

総務省「今後の地方公会計の推進に関する研究会」報告の「統一的な基準」の表示方法に合わせるため、従前の財務書類より大幅な表示の変更を行っています。

3. 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃

該当する事象はありません。

(2) 組織・機構の大幅な変更

該当する事象はありません。

(3) 地方財政制度の大幅な改正

該当する事象はありません。

(4) 重大な災害等の発生

該当する事象はありません。

(5) その他重要な後発事象

該当する事象はありません。

4. 偶発債務

(1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況

(単位：千円)

団体名	出資割合 (%)	損失補償限度額	うち財政健全化法の将来負担比率の算定上将来負担額とした額
		-	
		-	
		-	
合計		-	

(2) 係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けているもの

(単位：千円)

名称等 (訴訟等)	金額	事件番号	概要
	-		
	-		
	-		
合計	-		

(3) その他主要な偶発債務

該当する事象はありません。

5. 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

- ① 一般会計等財務書類の対象範囲は次の通りです。
一般会計
- ② 一般会計等と普通会計の対象範囲等の差異
差異はありません。
- ③ 出納整理期間について
財務書類の作成基準日は、会計年度末（3月31日）ですが、出納整理期間中の現金の受け払い等を終了した後の計数を以て会計年度末の計数としています。
（地方自治体法第235条の5「普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって閉鎖する。」）
- ④ 各項目の金額を表示単位未満で四捨五入しているため、合計等の金額が一致しない場合があります。
- ⑤ 地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況は、次の通りです。
- | | | |
|----------|-----|---|
| 実質赤字比率 | - | % |
| 連結実質赤字比率 | - | % |
| 実質公債費比率 | 6.1 | % |
| 将来負担比率 | - | % |
- ⑥ 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額
- | | | |
|--|---|----|
| | - | 千円 |
|--|---|----|
- ⑦ 繰越事業に係る将来の支出予定額
- | | | |
|-----------------|--------|----|
| 繰越事業に係る将来の支出予定額 | - | 千円 |
| 繰越費通次繰越額（一般会計） | - | 千円 |
| 繰越明許費（一般会計） | 19,203 | 千円 |
| 事故繰越額（一般会計） | - | 千円 |
- ⑧ 過年度修正などに関する事項
該当する事象はありません。

(2) 貸借対照表に係る事項

- ① 基準モデルから統一的な基準モデルへ移行したことによる影響など
従前の財務書類を公開しておらず影響はありません。
- ② 売却可能資産に係る資産科目別の金額及びその範囲
- | | | | |
|-----|--------------------|---|----|
| 土地 | 1,610,667 千円内、売却可能 | - | 千円 |
| 立木竹 | 2,682,587 千円内、売却可能 | - | 千円 |
| 建物 | 5,815,036 千円内、売却可能 | - | 千円 |
| 工作物 | 4,554,040 千円内、売却可能 | - | 千円 |
| 物品 | 208,879 千円内、売却可能 | - | 千円 |
- 上記の金額は、貸借対照表における簿価額を記載しています。
- ③ 減価償却累計額
間接法による表示なのでこでの記載は不要とします。

- ④ 減債基金に係る積立不足の有無及び不足額
該当する事象はありません。 - 千円
- ⑤ 基金借入金（繰替運用）の内容
〇〇基金の繰替運用の資金額 - 千円
- ⑥ 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額
健全化資料 4⑩表より 5,182,719 千円
- ⑦ 将来負担に関する情報（地方公共団体財政健全化法における将来負担比率の算定要素）
- | | |
|------------------------------|---------------|
| ア. 標準財政規模 | 3,221,498 千円 |
| イ. 元利償還金・純元利償還金に係る基準財政需要額算入額 | 527,359 千円 |
| ウ. 将来負担額 | 9,254,816 千円 |
| エ. 充当可能金額 | 11,354,118 千円 |
| オ. 特定財源見込額 | 300,902 千円 |
| カ. 地方債現在高などに係る基準財政需要額算入見込額 | 5,798,403 千円 |
- ⑧ 自治法第234条の3に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務
該当する事象はありません。 - 千円
- ⑨ 管理者と所有者が異なる指定区間外の国道や指定区間の一級河川等及び表示登記が行われていない法廷が公共物
該当する事象はありません。
- ⑩ 道路、河川及び水路の敷地の評価額 - 千円
- ⑪ PFI事業に係る資産
該当する事象はありません。
- (3) 行政コスト計算書に係る事項
該当する事象はありません。
- (4) 純資産変動計算書に係る事項
- ① 純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容
固定資産等形成分は、資産形成のために充当した資源が蓄積されたもので、原則として固定資産等の形態で保有されています。
余剰分（不足分）は、費消可能な資源が蓄積されたもので、原則として金銭の形態で保有されています。

(5) 資金収支計算書に係る事項

① 基礎的財政収支

業務活動収支（支払利息支出を除く）	398,805 千円
投資活動収支（基金積立支出／取崩収入を除く）	△ 234,786 千円
基礎的財政収支	164,019 千円

② 既存の決算情報との関連性

（単位：千円）

	収入（歳入）	支出（歳出）
歳入歳出決算書	-	-
財務書類の対象となる会計の範囲の相違に伴う差額	-	-
資金収支計算書	-	-

地方自治法233条第1項に基づく歳入歳出決算書は「一般会計」を対象範囲としているのに対して、資金収支計算書は「一般会計等」を対象範囲しているが、一般会計等に含まれる特別会計はないので差異は発生しません。

③ 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の当年度差額との差額の内訳
主な内訳は、以下の通りです。

ア. 賞与等引当金繰入額	63,521 千円
イ. 退職手当引当金繰入額	△ 41,686 千円
ウ. 減価償却費	555,785 千円
エ. 資産除売却損	303 千円
オ. 賞与等引当金繰戻額（前年度繰入額）	63,216 千円
カ. 退職手当引当金繰戻額（前年度繰入額）	△ 15,245 千円

④ 一時借入金
該当する取引はありません。

⑤ 重要な非資金取引
該当する取引はありません。

全体会計財務書類

全体貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	23,292,095	固定負債	8,917,737
有形固定資産	18,934,951	地方債等	8,043,959
事業用資産	9,774,183	長期未払金	-
土地	1,242,518	退職手当引当金	873,778
立木竹	2,682,587	損失補償等引当金	-
建物	15,855,969	その他	-
建物減価償却累計額	△ 10,040,014	流動負債	853,519
工作物	35,501	1年内償還予定地方債等	745,799
工作物減価償却累計額	△ 2,379	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	74,055
航空機	-	預り金	33,665
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-		
その他減価償却累計額	-	負債合計	9,771,256
建設仮勘定	-		
インフラ資産	8,939,317	【純資産の部】	
土地	410,893	固定資産等形成分	25,620,946
建物	2,000,205	余剰分(不足分)	△ 9,458,486
建物減価償却累計額	△ 852,321	他団体出資等分	-
工作物	14,881,491		
工作物減価償却累計額	△ 7,503,797		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	2,846		
物品	1,178,643		
物品減価償却累計額	△ 957,193		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	4,357,144		
投資及び出資金	132,431		
有価証券	12,540		
出資金	119,891		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	56,861		
長期貸付金	80,933		
基金	3,124,366		
減債基金	260,568		
その他	2,863,798		
その他	964,575		
徴収不能引当金	△ 2,022		
流動資産	2,641,621		
現金預金	306,848		
未収金	5,922		
短期貸付金	-		
基金	2,328,851		
財政調整基金	2,328,851		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
繰延資産	-		
		純資産合計	16,162,460
資産合計	25,933,716	負債及び純資産合計	25,933,716

【様式第2号】

全体行政コスト計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	6,105,421
業務費用	3,443,616
人件費	1,136,246
職員給与費	1,107,562
賞与等引当金繰入額	74,055
退職手当引当金繰入額	△ 80,082
その他	34,711
物件費等	2,236,624
物件費	1,391,592
維持補修費	113,948
減価償却費	731,083
その他	-
その他の業務費用	70,746
支払利息	30,216
徴収不能引当金繰入額	△ 35
その他	40,566
移転費用	2,661,805
補助金等	2,364,305
社会保障給付	290,758
その他	6,743
経常収益	643,628
使用料及び手数料	354,264
その他	289,364
純経常行政コスト	5,461,793
臨時損失	45,445
災害復旧事業費	-
資産除売却損	45,445
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	2,575
資産売却益	2,575
その他	-
純行政コスト	5,504,664

【様式第3号】

全体純資産変動計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

(単位：千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	16,335,888	26,038,442	△ 9,702,553	-
純行政コスト(△)	△ 5,504,664		△ 5,504,664	-
財源	5,280,081		5,280,081	-
税収等	4,057,941		4,057,941	-
国県等補助金	1,222,140		1,222,140	-
本年度差額	△ 224,583		△ 224,583	-
固定資産等の変動(内部変動)		△ 463,645	463,645	
有形固定資産等の増加		292,962	△ 292,962	
有形固定資産等の減少		△ 781,254	781,254	
貸付金・基金等の増加		102,436	△ 102,436	
貸付金・基金等の減少		△ 77,789	77,789	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	46,150	46,150		
他団体出資等分の増加	-			-
他団体出資等分の減少	-			-
その他	5,005	-	5,005	
本年度純資産変動額	△ 173,428	△ 417,495	244,067	-
本年度末純資産残高	16,162,460	25,620,946	△ 9,458,486	-

【様式第4号】

全体資金収支計算書

自 平成30年4月1日

至 平成31年3月31日

(単位：千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	5,454,220
業務費用支出	2,792,414
人件費支出	1,216,092
物件費等支出	1,505,540
支払利息支出	30,216
その他の支出	40,566
移転費用支出	2,661,805
補助金等支出	2,364,305
社会保障給付支出	290,758
その他の支出	6,743
業務収入	5,896,394
税収等収入	4,062,429
国県等補助金収入	1,189,704
使用料及び手数料収入	354,478
その他の収入	289,784
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	442,174
【投資活動収支】	
投資活動支出	384,148
公共施設等整備費支出	292,962
基金積立金支出	91,186
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	106,305
国県等補助金収入	32,436
基金取崩収入	66,569
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	7,300
その他の収入	-
投資活動収支	△ 277,842
【財務活動収支】	
財務活動支出	738,354
地方債等償還支出	738,354
その他の支出	-
財務活動収入	568,633
地方債等発行収入	568,633
その他の収入	-
財務活動収支	△ 169,721
本年度資金収支額	△ 5,390
前年度末資金残高	278,572
本年度末資金残高	273,182
前年度末歳計外現金残高	37,265
本年度歳計外現金増減額	△ 3,599
本年度末歳計外現金残高	33,665
本年度末現金預金残高	306,848

【様式第5号】

附属明細書

1. 貸借対照表の内容に関する明細

※下記以外の資産及び負債のうち、その額が資産総額の100分の5を超える科目についても作成する。

(1) 資産項目の明細

①有形固定資産の明細

区分	(単位：千円)										
	前年度末残高 (A)	本年度増加額 (B)	本年度減少額 (C)	本年度末残高 (A) + (B) - (C) (D)	本年度末 減価却累計額 (E)	本年度償却額 (F)	差引本年度末残高 (D) - (E) (G)	総務	消防	その他	合計
事業用資産	19,730,304	488,570	402,299	19,816,576	10,042,382	299,938	9,774,183				
土地	1,247,546	20,349	25,377	1,242,518	-	-	1,242,518				
立木竹	2,682,587	-	-	2,682,587	-	-	2,682,587				
建物	15,764,670	468,222	376,922	15,855,969	10,040,014	297,560	5,815,956				
工作物	35,501	-	-	35,501	2,379	2,379	33,123				
船舶	-	-	-	-	-	-	-				
浮標等	-	-	-	-	-	-	-				
航空機	-	-	-	-	-	-	-				
その他	-	-	-	-	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-	-	-	-	-				
インフラ資産	17,176,168	174,131	54,864	17,295,435	8,356,118	361,398	8,939,317				
土地	409,885	1,007	0	410,893	-	-	410,893				
建物	1,935,621	64,584	-	2,000,205	852,321	47,776	1,147,884				
工作物	14,821,335	108,540	48,384	14,881,491	7,503,797	313,622	7,377,694				
その他	-	-	-	-	-	-	-				
建設仮勘定	9,326	-	6,480	2,846	-	-	2,846				
物品	1,151,987	40,458	13,802	1,178,643	957,193	69,747	221,450				
合計	38,058,459	703,160	470,965	38,290,654	19,355,704	731,083	18,934,951				

②有形固定資産の行政目的別明細

区分	(単位：千円)									
	生活インフラ・ 国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	その他	合計	
事業用資産	1,213,815	898,500	970,867	1,220,219	3,132,098	9,212	909,838	1,419,635	9,774,183	
土地	172,799	208,112	118,452	59,577	107,836	9,212	222,467	344,063	1,242,518	
立木竹	-	-	-	-	2,682,587	-	-	-	2,682,587	
建物	1,041,016	690,388	819,292	1,160,642	341,674	-	687,372	1,075,572	5,815,956	
工作物	-	-	33,123	-	-	-	-	-	33,123	
船舶	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
浮標等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
航空機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
建設仮勘定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
インフラ資産	8,690,815	6,184	-	32,174	6,764	-	24,476	178,905	8,939,317	
土地	256,087	6,184	-	-	6,764	-	-	141,858	410,893	
建物	1,123,409	-	-	-	-	-	24,476	-	1,147,884	
工作物	7,311,319	-	-	32,174	-	-	-	34,201	7,377,694	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
建設仮勘定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
物品	7,303	6,801	109,198	13,911	27,407	-	27,333	29,497	221,450	
合計	9,911,932	911,485	1,080,065	1,266,304	3,166,268	9,212	961,647	1,628,038	18,934,951	

注記 【全体】

1. 重要な会計方針

- (1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法
開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得原価とし、取得原価が不明なものは原則として再調達原価としています。
また開始後については、原則として取得原価とし、再調達原価での評価は行わないこととしています。
- (2) 有価証券等の評価基準及び評価方法
出資金のうち、市場価格があるものは会計年度末における市場価格を以て貸借対照表価額としています。
出資金のうち、市場価格がないものは出資金額を以て貸借対照表価額としています。
ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしています。
なお、出資金額の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当するものとしています。
- (3) 有形固定資産等の減価償却の方法
- ・有形固定資産（事業用資産、インフラ資産）
定額法を採用しています。
 - ・無形固定資産
定額法を採用しています。
- (4) 引当金の計上基準及び算定方法
- ・徴収不能引当金
過去3年間の平均不納欠損率により計上しています。
 - ・賞与引当金
翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給対象期間に対する当年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しています。
 - ・退職給付引当金
地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っています。
 - ・損失補償引当金
地方公共団体財政健全化法における損失補償債務等に係る一般会計等負担見込額算定方式に従っています。
- (5) リース取引の処理方法
ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。
(少額リース資産及び短期のリース取引は簡易的な取り扱いをし、通常の賃貸借に係る方法に通常の賃貸借に係る方法に準じて会計処理を行っています。)
- (6) 資金収支計算書における資金の範囲
現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等額（3ヶ月以内の短期投資など）を資金の範囲としています。
このうち現金同等額は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受け払いも含んでいます。
- (7) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項
- ・消費税の会計処理
税込方式によっています。

2. 重要な後発事象

- (1) 主要な業務の改廃
該当する事象はありません。
- (2) 組織・機構の大幅な変更
該当する事象はありません。
- (3) 地方財政制度の大幅な改正
該当する事象はありません。
- (4) 重大な災害等の発生
該当する事象はありません。
- (5) その他重要な後発事象
該当する事象はありません。

3. 偶発債務

- (1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況
該当する事象はありません。
- (2) 係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けているもの
該当する事象はありません。
- (3) その他主要な偶発債務
該当する事象はありません。

4. 追加情報

- (1) 全体財務書類の対象範囲は次の通りです。

一般会計等	:	一般会計
事業会計	:	国民健康保険特別会計 介護保険特別会計 後期高齢者医療特別会計 介護サービス事業特別会計
公営企業会計（非法適）	:	簡易水道特別会計 公共下水道特別会計

- (2) 出納整理期間について
全体財務書類の作成基準日は会計年度末（3月31日）ですが、出納整理期間中の現金の受け払い等を終了した後の計数を以て会計年度末の計数としています。
（地方自治体法第235条の5「普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって閉鎖する。」）
- (3) 各項目の金額を表示単位未満で四捨五入しているため、合計等の金額が一致しない場合があります。
- (4) 連結財務書類作成の手引きに沿って連結対象会計間の、すべての内部取引を相殺消去しています。

連結会計財務書類

連結貸借対照表
(平成31年3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	25,111,653	固定負債	9,049,672
有形固定資産	19,769,239	地方債等	8,052,723
事業用資産	9,937,722	長期未払金	-
土地	1,242,525	退職手当引当金	996,946
立木竹	2,682,587	損失補償等引当金	-
建物	16,215,181	その他	3
建物減価償却累計額	△ 10,240,695	流動負債	882,437
建物減損損失累計額	-	1年内償還予定地方債等	755,857
工作物	53,827	未払金	5,769
工作物減価償却累計額	△ 15,764	未払費用	1,477
工作物減損損失累計額	-	前受金	-
船舶	89	前受収益	-
船舶減価償却累計額	△ 28	賞与等引当金	82,496
船舶減損損失累計額	-	預り金	34,012
浮標等	-	その他	2,828
浮標等減価償却累計額	-	負債合計	9,932,109
浮標等減損損失累計額	-	【純資産の部】	
航空機	-	固定資産等形成分	27,600,061
航空機減価償却累計額	-	余剰分(不足分)	△ 9,528,253
航空機減損損失累計額	-	他団体出資等分	△ 129,085
その他	1		
その他減価償却累計額	-		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	-		
インフラ資産	9,550,347		
土地	410,916		
建物	2,706,954		
建物減価償却累計額	△ 987,611		
建物減損損失累計額	-		
工作物	15,078,898		
工作物減価償却累計額	△ 7,661,656		
工作物減損損失累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	2,846		
物品	1,514,818		
物品減価償却累計額	△ 1,233,648		
物品減損損失累計額	-		
無形固定資産	718		
ソフトウェア	1,300		
その他	△ 581		
投資その他の資産	5,341,696		
投資及び出資金	132,441		
有価証券	12,540		
出資金	119,901		
その他	-		
長期延滞債権	57,035		
長期貸付金	80,933		
基金	4,108,226		
減債基金	260,568		
その他	3,847,658		
その他	965,085		
徴収不能引当金	△ 2,025		
流動資産	2,763,180		
現金預金	423,346		
未収金	6,713		
短期貸付金	-		
基金	2,329,065		
財政調整基金	2,329,065		
減債基金	-		
棚卸資産	4,055		
その他	1		
徴収不能引当金	-		
繰延資産	-		
資産合計	27,874,833	純資産合計	17,942,724
		負債及び純資産合計	27,874,833

【様式第2号】

連結行政コスト計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	7,148,883
業務費用	3,894,569
人件費	1,314,896
職員給与費	1,262,033
賞与等引当金繰入額	82,496
退職手当引当金繰入額	△ 69,463
その他	39,829
物件費等	2,495,575
物件費	1,588,625
維持補修費	115,130
減価償却費	791,820
その他	-
その他の業務費用	84,098
支払利息	30,447
徴収不能引当金繰入額	△ 35
その他	53,687
移転費用	3,254,314
補助金等	2,956,390
社会保障給付	290,758
その他	7,166
経常収益	816,848
使用料及び手数料	369,568
その他	447,280
純経常行政コスト	6,332,034
臨時損失	45,793
災害復旧事業費	-
資産除売却損	45,445
損失補償等引当金繰入額	-
その他	347
臨時利益	2,575
資産売却益	2,575
その他	-
純行政コスト	6,375,252

連結純資産変動計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

(単位：千円)

科目	合計	固定資産等形成分		
		固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	18,273,598	28,055,356	△ 9,781,758	-
純行政コスト(△)	△ 6,375,252		△ 6,375,252	-
財源	6,123,337		6,123,337	-
税金等	4,455,046		4,455,046	-
国県等補助金	1,668,291		1,668,291	-
本年度差額	△ 251,915		△ 251,915	-
固定資産等の変動(内部変動)		△ 501,284	501,284	
有形固定資産等の増加		365,180	△ 365,180	
有形固定資産等の減少		△ 841,990	841,990	
貸付金・基金等の増加		281,666	△ 281,666	
貸付金・基金等の減少		△ 306,140	306,140	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	46,150	46,150		
他団体出資等分の増加	-			-
他団体出資等分の減少	-			-
比例連結割合変更に伴う差額	△ 129,085			△ 129,085
その他	3,975	△ 160	4,135	
本年度純資産変動額	△ 330,875	△ 455,295	253,505	△ 129,085
本年度末純資産残高	17,942,724	27,600,061	△ 9,528,253	△ 129,085

【様式第4号】

連結資金収支計算書

自 平成30年4月1日

至 平成31年3月31日

(単位：千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	6,428,505
業務費用支出	3,174,191
人件費支出	1,383,856
物件費等支出	1,704,435
支払利息支出	30,447
その他の支出	55,453
移転費用支出	3,254,314
補助金等支出	2,956,390
社会保障給付支出	290,758
その他の支出	7,166
業務収入	6,931,161
税収等収入	4,453,274
国県等補助金収入	1,635,855
使用料及び手数料収入	494,396
その他の収入	347,635
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	502,656
【投資活動収支】	
投資活動支出	635,551
公共施設等整備費支出	365,180
基金積立金支出	219,244
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	51,127
その他の支出	-
投資活動収入	318,259
国県等補助金収入	32,436
基金取崩収入	131,730
貸付金元金回収収入	53,248
資産売却収入	7,300
その他の収入	93,545
投資活動収支	△ 317,292
【財務活動収支】	
財務活動支出	751,984
地方債等償還支出	751,984
その他の支出	-
財務活動収入	568,633
地方債等発行収入	568,633
その他の収入	-
財務活動収支	△ 183,351
本年度資金収支額	2,013
前年度末資金残高	388,397
比例連結割合変更に伴う差額	△ 1,040
本年度末資金残高	389,370
前年度末歳計外現金残高	37,602
本年度歳計外現金増減額	△ 3,626
本年度末歳計外現金残高	33,976
本年度末現金預金残高	423,346

注記 【連結】

1. 重要な会計方針

- (1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法
開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得原価とし、取得原価が不明なものは原則として再調達原価としています。
また開始後については、原則として取得原価とし、再調達原価での評価は行わないこととしています。
- (2) 有価証券等の評価基準及び評価方法
出資金のうち、市場価格があるものは会計年度末における市場価格を以て貸借対照表価額としています。
出資金のうち、市場価格がないものは出資金額を以て貸借対照表価額としています。
ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしています。
なお、出資金額の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当するものとしています。
- (3) 有形固定資産等の減価償却の方法
- ・有形固定資産（事業用資産、インフラ資産）
定額法を採用しています。
 - ・無形固定資産
定額法を採用しています。
- (4) 引当金の計上基準及び算定方法
- ・徴収不能引当金
過去3年間の平均不納欠損率により計上しています。
 - ・賞与引当金
翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給対象期間に対する当年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しています。
 - ・退職給付引当金
地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っています。
 - ・損失補償引当金
地方公共団体財政健全化法における損失補償債務等に係る一般会計等負担見込額算定方式に従っています。
- (5) リース取引の処理方法
ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。
(少額リース資産及び短期のリース取引は簡易的な取り扱いをし、通常の賃貸借に係る方法に通常の賃貸借に係る方法に準じて会計処理を行っています。)
- (6) 資金収支計算書における資金の範囲
現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等額（3ヶ月以内の短期投資など）を資金の範囲としています。
このうち現金同等額は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受け払いも含んでいます。
- (7) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項
- ・消費税の会計処理
税込方式によっています。

2. 重要な後発事象

- (1) 主要な業務の改廃
該当する事象はありません。
- (2) 組織・機構の大幅な変更
該当する事象はありません。
- (3) 地方財政制度の大幅な改正
該当する事象はありません。
- (4) 重大な災害等の発生
該当する事象はありません。
- (5) その他重要な後発事象
該当する事象はありません。

3. 偶発債務

- (1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況
該当する事象はありません。
- (2) 係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けているもの
該当する事象はありません。
- (3) その他主要な偶発債務
該当する事象はありません。

4. 追加情報

- (1) 連結財務書類の対象範囲は次の通りです。

一般会計等	:	一般会計
事業会計	:	国民健康保険特別会計 介護保険特別会計 後期高齢者医療特別会計 介護サービス事業特別会計
公営企業会計（非法適）	:	簡易水道特別会計 公共下水道特別会計
一部事務組合等	:	北海道後期高齢者医療広域連合 北海道市町村備荒資金組合 遠軽地区広域組合 網走地方教育研修センター組合
第三セクター等	:	株式会社ドリームフロンティア

- (2) 出納整理期間について
全体財務書類の作成基準日は会計年度末（3月31日）ですが、出納整理期間中の現金の受け払い等を終了した後の計数を以て会計年度末の計数としています。
（地方自治体法第235条の5「普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって閉鎖する。」）
一部事務組合・第三セクター等の財務書類は、会計年度末（3月31日）となっています。
- (3) 各項目の金額を表示単位未満で四捨五入しているため、合計等の金額が一致しない場合があります。
- (4) 第三セクター等の会計は、公会計勘定科目体系とは異なることから読み替えを行って作成しています。
- (5) 連結財務書類作成の手引きに沿って連結対象会計間の、すべての内部取引を相殺消去しています。